

平成23年度 施策達成度評価シート (平成22年度実績評価)

施策の柱		施策	
コード	名称	コード	名称
1	いきいきとして安心できる暮らし	17	ふれあい広がる地域福祉の実現
施策主管部(保健福祉部)		評価者(施策統括マネージャー)名 柴田道明	

1 施策の目的(目指す姿)

対象 (誰を,何を対象としているのか)	意図 (この施策により対象をどのように変えるのか)
市民・地域	地域で支え合える

2 達成度

(1)成果指標

指標名	単位	指標の性格	H21実績値	H22年度計画 (年度目標値)	H22実績値	H23計画 (年度目標値)	H26計画 (最終目標値)
盛岡市社会福祉協議会ボランティア登録者数	人	↗	10,225	10,400	10,106	10,570	12,000
市や盛岡市社会福祉協議会に登録している福祉活動を行うNPOやボランティア団体数	団体	↗	115	116	129	129	120
アンケート調査「身の回りでボランティア活動が行われていると感じる」と答えた市民の割合	%	↗	26.80	27.00	24.70	26.00	30.00

(2)近隣自治体との成果水準比較

指標名	他自治体の状況等
盛岡市社会福祉協議会ボランティア登録者数	盛岡市 10,106人 滝沢村 4,393人 矢巾町 1,084人 紫波町 約2,080人 雫石町 462人 大震災に伴い、市社会福祉協議会が募集して対応している災害ボランティアは56団体、849名に上っており、これらの災害ボランティアを加えると、185団体、10,955名となる。
市や盛岡市社会福祉協議会に登録している福祉活動を行うNPOやボランティア団体数	ボランティア団体数は盛岡市 129団体 滝沢村 46団体 矢巾町 29団体 紫波町 32団体 雫石町 19団体 一般のボランティアは横ばい状況であるが、災害ボランティアは大幅に増加している。
アンケート調査「身の回りでボランティア活動が行われていると感じる」と答えた市民の割合	他都市のデータなし。 ほぼ横ばいで推移している。

3 達成度評価結果

取組内容と成果、成果を得られた要因	<p>平成21年度の「盛岡市地域福祉計画」の中間年度見直しにより、災害時用援護者避難支援対策を位置づけたこと、市民の意識が「ボランティア活動」「支えあい活動」「災害時の対策」について関心が高くなってきていることなどから、22年度には「災害時用援護者避難支援ガイドライン」に基づき、庁内における情報共有と災害時の避難支援活動を推進する横断的な組織の設置や社会福祉法人との災害時における避難所・車椅子の搬送可能な車両の提供についての協定を結んだ。</p> <p>地区福祉推進会の3地区においては継続してモデル地区事業として認知症・ボランティア・地域活動計画等をテーマに地域住民による福祉コミュニティづくりの推進を図った。また、地域住民による支えあいマップ作りアドバイザー事業などを通じ地域住民自らが地域課題に取り組む機運の醸成に努めた。</p> <p>3.11の地震発生時には、民生委員や自主防災隊、自治会・町内会の役員が、自主的に要援護者の見守りと安否確認を行ったことが報告されている。(地区民協やケア会議で報告があったもの。)</p> <p>震災を通じて、地域や人と人との支えあいの重要性が確認され、市社会福祉協議会が募集して対応している災害ボランティアは56団体、849名に上っており、さらに伸びそうな状況である。地域福祉の観点で言えば、共助を担う部分であり、「ふれあい、ささえあい、心をつなぐまちづくり」に向かっての動きが出てきている。</p>
翌年度以降の課題、その要因	<p>地域住民のつながりの希薄化、家族力、地域力の低下が指摘されている中で、地域のさまざまな福祉課題は、地域の実情によってとらえ方が異なり、温度差があることから、それぞれの地域の実情を勘案しながら、福祉コミュニティ再構築のために課題に取り組むボランティア活動などへの参加意識の醸成や住民、地縁団体、事業者、NPO、市社会福祉協議会、行政等、あらゆる地域資源が連携・協働できる具体的な体制構築や仕組みづくりが課題となっている。</p>

